

1. 実施機関名

国立情報学研究所

2. 企画名

情報学のトップ才能からエリートへ才能の発掘、接続、達人の養成ー

3. 総合評価コメント

企画の目標を達成し、十分な成果が得られたと評価する。

実施機関である国立情報学研究所が、共同機関である情報オリンピック日本委員会と情報処理学会の協力のもと、全国から情報分野のトップ才能発掘を目指す実施体制を構築している。年度毎に優秀な受講生を多数集め、国際学会を含めた研究発表で多くの成果を創出するなど、情報分野に優れた中高生の存在を知らしめたことは評価できる。育成プログラムの各段階において、オンラインを活用した講習やミーティング、ワークショップ等と多様な形態で充実した講師による高度な講義を提供している点も良い。また、全国の大学や研究機関等の若手研究者から幅広く協力を得て、受講生に対して個に応じた研究指導を行っている。

一方、修了生が海外の大学へ留学しているケースは見られるものの、大学入学後の民間資金による海外での研究開発活動については計画通りに実施できなかった部分もあった。また、女子生徒の応募や地方からの応募者について、引き続き募集方法の改善に取り組み、広い地域から優秀な生徒をより多く集める工夫が望まれる。

今後、民間資金を活用した海外での研究開発活動やトップ才能発掘のための応募者の確保については引き続き検討し実施につなげていただきたい。継続プログラムを経て体制を強化し、本企画の最終目的である情報学のトップ才能からエリート研究者へ引き上げるためのエコシステムが構築されることを期待する。